

山行報告書

通算山行NO	NO・177S	報告者	加藤 秀子	
年 月 日	'00年 4月28日(金曜日)～	年 月 日	5月 2日(火曜日)	
山 行 名	登山と山スキー(春山合宿S隊)	天 候		
山 名	鳥海山(2236m)・月山(1989m)・燧ヶ岳(2346m)			
この山のセールスポイント	噂の蔵王スキー場で滑ってしまった オマケの山行はいつも満足感溢れて			
コース及び タイム	4/28 東名沼津IC 18:00⇒首都高速⇒東北道⇒山形道月山IC⇒月山駐車場2:00 4/29 起床6:00⇒蔵王スキー場10:30～14:40⇒鳥海山矢島登山口20:00			
標 高 差	△S	～T	= m 体 力 度	1・2・3・4・5・6
	▼T	～G	= m 技 術 度	1・2・3・4・5・6
全走行距離	下土狩～下土狩	=1,800km	展 望 度	1・2・3・4・5・6

参加者	CL	後藤隆徳	53	蔵王も真冬にトライしたいですね。 蔵王のモンスターは見る事ができなくて残念だったが、おかげで
		加藤秀子	51	

一 連休中の天候が芳しくない為、予定を繰り上げ前夜発となった。東名沼津ICから首都  
目 高速に入った途端、渋滞になってしまったが2時間程で抜け、東北道から山形道月山IC  
まで休みなく暗闇の中をひた走る。月山スキー場手前の志津温泉街に着いたのは翌日の深  
夜2時であった。道の端っこに車を止め、その儘シュラフにくるまり眠り込む。

二 車にあたる雨音で目が覚めた。窓外はガスがかかり天候は最悪だ。水の補給に一旦、志  
目 津温泉街に戻る途中で出会った道路作業員に、道路の状況を聞くと昨夜の雪が積もりスキ  
ー場への道は閉鎖。除雪している最中に見通しはたたないと言う。参った。

たまたま玄關に顔を出した民宿のおばさんに、図々しく朝食用のお湯を頼み、上がり込んで  
お茶をいただき、トイレを借り、おまけにテレビをつけ天気予報まで見させてもらう。レトル  
トを温めた簡単な朝食を済ませた頃、意外と早く開通。勢い込んで姥沢駐車場へ行ってみるが、  
全くのガスで1m先も視界がきかない。暫く様子を見たが変わらない状況に予定を変更。蔵王  
でスキーの練習と決めた。

蔵王は、薄曇りだが天気はマアマアだ。だが上部はガス。天気が良ければ登りたかったが・  
・。チケットを買い早速リフトに乗り込む。ゲレンデは人がまばらで練習に丁度良い。先ず  
は斜面のゆるいゲレンデから滑り込み、リフトを乗り換え次はきつい箇所、次はと合計9回程  
足馴らしを楽しんだ。だがゲレンデはあくまでゲレンデ。4時間の券を買ったが飽きてしまい  
次の予定地、鳥海山へ向かう事にした。

R13をCLのナビでひたすら走る。窓外は今、春真っ盛り。桜、コブシ、桃と色が流れる。  
土手にはみるような《ふきのとう》が其処かしこにあり食指をそそる。矢島町の食堂(ママが  
沼津にいたという)で、〇〇という最高にウマイ酒に舌舐めずりをしながら夕食を済ませた。  
此処から被川駐車場までは長い曲がりくねった細い林道を上っていく。あがる程に雪が深くな  
り、駐車場手前は高さ5～6m程の雪壁になる。ライトに浮き出された雪のトンネルに鳥海山  
の雪量を想像する。明日はきっと良い滑りが期待できるだろう。漆黒の天井は、溢れんばかり  
の満天の星で天気も約束してくれているようだ。

山名	鳥海山(2236m)	報告者	後藤隆徳
----	------------	-----	------

この山のセールスポイント **東北の白き貴婦人を楽しむ**

4月30日(日) 起床 5:00 祓川駐車場 6:15 ~新山 9:40 ~デポ地 10:00~七ッ釜避難小屋  
 微風・快晴 11:40~駐車場 11:10⇒猿倉温泉 12:00/14:00⇒月山姥沢 19:35

参加者	後藤隆徳	53	憧れの山スキーの山。素晴らしい!	体力・技術	③
	加藤秀子	51	素晴らしい登山。ワクワクものだった	展望	⑥

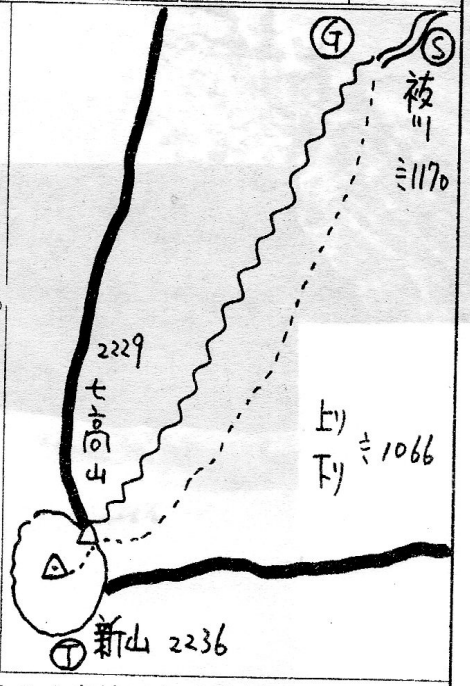
第三日 山は快晴だった。駐車場は既に満パイ。雪の壁は5~6m。目の前の壁の階段を登ると、鳥海山の大雪原が広がっていた。前方にスキーヤーと登山者が何人か見えた。此処から私達の53名抜きが始まった。

とにかく富士山に似た大雪原を上上にグングンと登る。帰りはあすこを、ここを、ああして、こうして滑ろうと、思い巡らしながらの登行は楽しい。30名程の登山者を一気に抜く。この時期スキーがベストだが、登山もそれ程もぐらないのでマァマァだ。七合目位から昨日の新雪が積もっていた。今頃の新雪は重くて悪い。

更に何人か抜いて外輪山の急登にかかる。先程迄あんなにいた登山者はもう一人しかいなかった。加ト一が数えたら53名抜いたそう。スキーを脱ぐ。この辺りは左手程楽なので左に左に逃げる。おもむろに外輪山最高峰・七高山に飛び出た。群馬からのスキーヤーが一人座っていた。ここに荷物を置き新山に向かう。大量の残雪の新山は夏のそれと較べようもなく登り易い。頂上でバンザイ。目の前に酒田の街と日本海が広がっていた。3回目の頂上だ。

外輪山に帰ると、先程抜かした50名程がいた。9割方新山に向かわないのは何故?あくまで「登山者」である私達は、何時でも「頂上」にこだわりたい。50名程のギャラリーを前に私が滑降開始。気温は0度。この位の温度がサイコーの雪面になる。硬くも軟らかくもない超快適なターンが決まる。サイコーだ。

振り向き加ト一に『どうぞ』とアイコンタクト。加ト一、ギャラリーを意識したかズッコケタ。まァこれも御愛嬌。後はのんびり楽しみながら下るのみ。それにしても沢山登って来る。皆のんびりしたものだ。七ッ釜避難小屋でビールを飲む。駐車場で労山マークをつけた車を2台発見。宮城労山だった。猿倉温泉入浴後、月山姥沢に向かう。



加藤ひと言 夏に登った荒々しい鳥海山の面影は全くなく、外輪山のゆるやかな雪のカーブに、岩についた見事な(えびの尻尾)に感動!ギャラリーを意識しすぎて出だしはズッコケタが、直下の一枚バーンは超快適。あまりに雄大な自然に嬉しさが弾いた。

※後に宮城県連・朋友会の会報に日本海の下飛鳥島が見えたこと取りました。





祓川ヒュッテ







外輪山







シュカブラが凄い











新山頂上











セツ釜避難小屋



凄い雪





宮城労山の車があっ

た (ワゴン)







凄いな～！！



象潟に向かう



山名	月山(1984m)	報告者	加藤秀子
----	-----------	-----	------

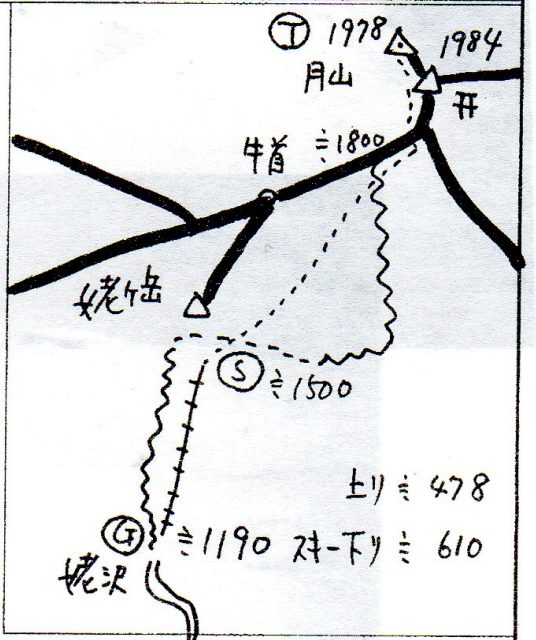
この山のセールスポイント **山の素地その儘のゲレンデが眩しい**

5月1日(月) 起床5:30/7:00 ~ リフト7:30/7:45 ~ 1800m地点 ~ 月山頂上 9:18 ~ 1800m  
晴・曇・一時雨 地点 9:30 ~ 駐車場 10:45 ⇒ 入浴 13:30 ⇒ 燧枝岐村・御池小屋 19:15

参加者	後藤隆徳	53	初付アウトの中頂上を極めて良かった	体力・技術	③
	加藤秀子	51	重くて滑りずらかったが、それに	展望	⑥

第一日目に世話になった民宿の駐車場に車を移動し、朝食を済ませトイレを拝借。心配していた天気も午前中は持ちそうだと再びスキー場に戻りシール登山を開始。だが、天候を考慮して動き出したリフトを利用する。降り立つ頃、陽が射しはじめ好天の兆しに見えたが、牛首から月山の方向はやはりガスで見えない。

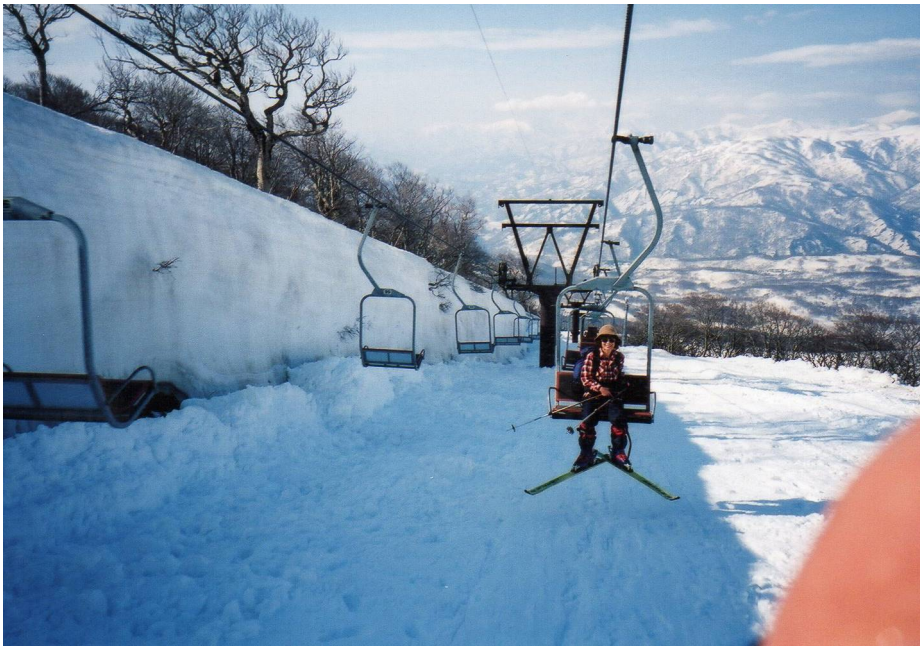
グズグズの腐れ雪は重く、鉛が足元に絡まっているようだ。しかしCLはものともせず早い。牛首を越えるとガスで視界が悪く、1800mの地点に板をデポし、地形図とコンパスで方向を定めながら《つぼ足》で頂上を目指す。急な傾斜を慎重に登り、ホンの一部しか見えない鍛冶月光と鍛冶小屋を迷いなく通過し、1980mの稜線に着いた。先客の二人のうち一人は、探したがガスで頂上が分からなかったと下山。もう一人も諦めて座っていた。その人達にCLは、自分はもう少し探してみるからと言い残し、高度計を駆使しながらとうとう1984mの月山神社を祭ってある頂上を探しあてた。社の屋根の干木が僅かにのぞいている。やっぱりその道のプロだった。ガスと風に長居は無用と直ぐ下山。デポ地まで戻ると、山スキーヤーが7~8人登ってきた。そしてガスの中へと消えていった。



滑降を開始する。湿った雪は重くて滑りづらい。其れでもCLの描いたシュプールを反対に回り込み8の字を雪面に刻んで楽しんだ。牛首から姥ヶ岳への登山返しに《あられ》混じりの雨が降り始め、潔くゲレンデを下り駐車場へ。月山志津温泉《えびすや》で一風呂浴びる。ここは以前、夏の東北ツアーで月山の帰り、やっぱり寄った懐かしい風呂である。貸し切り状態の湯船にドブプリ浸かり疲れを取った後、燧ヶ岳へ向かう為出発。

東北自動車道から郡山JCTを経て磐越自動車道に入り、会津若松ICから会津鉄道沿いにローカル線を走る。変化に富んだ町並みに、目線はキョロキョロ。奥深い山合いを車はひたすら走る。やっと燧枝岐村の七入りに着いたのは、夜の帳もおりた頃だった。七入りのゲートは閉めてあり、《通行止め》の看板があったが、CLが事前に御池まで行ける確認をしてあったので、かまわず通過する。御池小屋は明かりが灯り、既に営業しているのか人の気配がした。遅い夕食をとり、明日は3時起床と早々に休む。





月山リフト











頂上祠が殆ど埋まってる





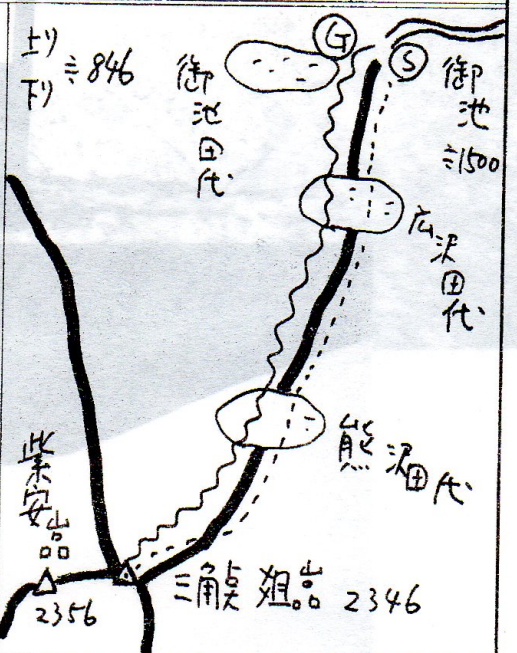
山名	燧ヶ岳 (組数・2346m)	報告者	後藤隆徳
----	----------------	-----	------

この山のセールスポイント **東北の最高峰は美しき山**

5月2日 (火)  
快晴・風あり  
起床3:00 御池発 4:20 ~組数 7:50 ~御池 9:00 ⇨入浴⇨御殿場 20:00

参加者	後藤隆徳	53	標高差少なく物足りない	体力・技術	③
	加藤秀子	51	急傾斜にスリル有り.	展望	⑥

第五日 東北山スキーツアー最終日に相応しく快晴だった。少し林道を歩き右手のブナ森に取りつく。雪は締まり歩き易い。広沢田代の登りは急で手強い。スキーの跡目が多いので以前に沢山入っている様子。熊沢田代の登りも急で大変。朝モヤが一面に広がり幻想的だ。登り切ると目の前に大きな燧が広がる。早くも左手からグングンと雲が流れる。頂上直下の有名な一枚バーンが見える。あそこを滑ると思うとゾクゾクする。



熊沢田代から一旦下り再び登る。連日の山行のためか、やや疲れを感じる。加トーも遅れ気味。バーンを登り切り山稜に達し、一気に三角点のある組数 (まないたぐら) 頂上に達する。鳥海、月山と違い誰もいない静かな頂だった。下からも今のところ誰も来ない。燧は双耳峰で隣の紫安 (しばやすぐら) の方が10m高い。しかし、雲がガンガン流れきてガスとうまくないので早く下る事にした。

此処は頂から直に滑降できる素晴らしい山だ。やや左にトラバース気味に、一枚バーンを攻める。いう事はない。振り返ると加トーはなかなか良いフォームで滑っていた。青空が眩しい。くされ雪に足をとられ、急な樹林帯は横滑りをまじえこなす。日当たりの良いブナの巨木森でビールをいただき、今日のツアーを締めた。

加藤ひと言

出だしから樹林帯の急登が始まり、CLについて行くのがやっと・・・と言うより遅れ気味。板とシール間に雪が団子のようにつき、際どいトラバースは冷や汗を流しながら登行する。少しでもバランスを崩したら一貫の終わり。止まる事を知らず、落ちていくだけだ。そういう意味では一番厳しい登りの山だった。頂上から、軽やかに滑るCLの後を追いつつ、それでもついて行ける事にダ～イ満足し、山スキーの醍醐味を充分堪能したツアーは終わった。春山スキーは雪が湿って重く、登行もシールが氷分を含み、足に鉛が着いたようでとても辛い。其れでも頂上を極めて大自然の懐に抱かれながら滑る時、一切を忘れ自分が風になったような鳥になったような気分さえしてしまう。そんな感覚を存分に味わえる山スキーの魅力にとりつかれて丸4年。今にパッパッとジャンプターンが出来るまで技術を磨くぞオ～。













熊沢田代











バックは、熊沢田代







俎峯 (まないたぐら・2346m)  
三角点はここにある







バックは、柴安嶺（しばやすぐら・2356m）











おわり